

## 「東海地震にそなえて ワンポイント・アドバイス」

### 18. 震災後のトイレ事情

災害時には、トイレが使えません。避難所では、避難者の数に比べて、トイレの数が足りないことが多く、トイレを待つ行列ができ、落ち着いて用を足すことができません。また、水道管が破裂して、水が出なくなると、汚物を流すこともできなくなります。

日本では大人1人が、1日60リットルの水をトイレのために使用されると言われています。しかし、災害時には、飲み水すら十分でないため、トイレ用の水を確保するのは難しいのです。現代の便利で清潔なトイレになれている私達には、トイレの不便さは、とても辛いことです。非衛生的なトイレに入るのがいやで、水分を十分にとらないでいると、体調を崩して、脳梗塞やエコノミークラス症候群になる恐れがあります。

避難所には仮設トイレが設置されますが、いきわたるまでには何日もかかります。また、かろうじて自宅が被災しなかったとしても、家庭の水洗トイレにも、排泄物がたまっていきます。

そこで、日頃から災害時を考えて、お風呂の水は次の入浴まで流さない、ポリタンクやペットボトルに水道水をためる、簡易トイレや組み立てトイレなどを購入するなどの準備をしておくといでしょう。